

「保育士になりたい!」につなげる 保育実習受入れチェックリスト



実習前にチェックすること \ check 1 /

1 実習受入れ体制を整える

- 指導担当職員を決めていますか。
- 直接指導に当たる職員以外の職員も含め、実習の指導方針について話し合い、共有していますか。
- 指導担当職員が指導方法や評価等について、相談しやすい環境を作っていますか。
- 指導担当職員は養成校からの実習の依頼内容を確認しましたか。
- 指導担当職員は実習生の実習段階内容を確認しましたか。
(初めての实習である保育実習I、2回目の実習である保育実習II)
- 直接指導に当たる職員は、実習の段階や内容等の実習依頼の情報を共有しましたか。
- 全職員(指導を実施する職員以外の者も含む)で実習生の受入れや実習時間について確認しましたか。
- 実習記録の添削について、職員によって指導内容が変わらないよう、表記の方法や表現を統一していますか。



- 丁寧な実習日誌の添削は、実習生の学びを深めるうえで大切な指導の一つです。しかし、赤字で紙面が埋め尽くされていたり、付箋が大量に貼られていたりすると、実習生が必要以上に落ち込んだり、自信を失ったりすることがあります。

2 事前オリエンテーション

- 事前の実習オリエンテーションは実施しましたか。
- 園の保育理念・目標、大切にしていることについて具体的に説明しましたか。
- 職員構成やクラス編成について説明しましたか。
- 実習生と共に実習計画について打合せをしましたか。
- 守秘義務の内容を、実習生がもれなく把握できるよう書面等で伝えましたか。
- 実習生が事前に準備が必要なこと(ピアノ演奏等)があれば実習生が理解できるよう書面等で伝えましたか。
- 実習時間や休憩時間の確認を行いましたか。



- 可能であれば、オリエンテーションで実習前に保育を見学したり、体験したりする機会をつくり、実習生の不安を軽減し、実習への期待につなげましょう。
- 園として伝えておきたい実習の確認事項・留意事項は、園の負担軽減、また、後で実習生が振り返ることができるためにも資料を作成しましょう。

3 ICT活用について

- 保育記録を電磁媒体で作成したり、ICTを活用したりする場合、仕様について説明しましたか。
- 養成校と実習施設の間で了解が得られれば、実習生に記入用フォーマットを配信しましたか。

実習中について \ check 2 /

- 実習生に対し、全職員が笑顔で挨拶や声かけはできていますか。
- 実習生の個性を認め、得意なことや不得意なことを理解するよう努めましたか。
- こどもたちに実習生を紹介し、子ども達が実習生と遊んでみたいくなるよう働きかけましたか。
- 実習生のその日のねらい(課題や目標)を把握して指導にあたりましたか。
- 実習生がこどもと自由に関われる雰囲気をつくりましたか。
- 一日の実習時間や休憩時間は守っていますか。
- 雑用業務ばかりを任せていませんか。
- 指導担当職員は、記録することで「保育を可視化」し、学びが得られることを、実習生が理解できるように指導しましたか。
- 実習施設で導入されているICTツールがあれば、仕組みを学ぶ機会を提供しましたか。
- 全職員は、実習生の前で職場の人間関係に関することや仕事の愚痴等は言わないように心がけましたか。



- 実習生の不安を軽減し、安心して実習ができる環境をつくるのが大切です。
- こどもとの関わり経験が少ない実習生もいます。はじめはどのように関わって良いかわからない場合もあるので、状況を見ながらこどもと関わるきっかけを作りましょう。

- 保育(1日、週など)や保育中の行動のねらい・意図を伝え、具体的な指導を行いましたか。
- 実習生が学びたい内容によって、保育方法を選択できるよう柔軟に対応しましたか。
- 実習時間内に実習記録を記入する時間を作っていますか。
- 実習開始後に、設定保育や責任実習の急な実施を促していませんか。



- 記録に対して、実習生が自信を持てるように多様な意見を認める、安心感を高めるといった姿勢で対応しましょう。
- 実習日誌の負担を考え、実習時間中に記録をまとめる時間を設けましょう。
- 実習生が自身の気づきを意識化できるような言葉かけを行っていきましょう。

- 毎日振り返りを実施しましたか。
- 実習生の課題や気になることは、評価表に記入したり、訪問教員に伝えるだけでなく、日々の振り返り等で直接、反省点や改善のためのアドバイスを実習生に伝えましたか。



- 日々の保育を振り返ることを通じて、実習生は、保育士のこどもの理解に触れたり、援助の意図を理解したりする機会になります。日々の保育の振り返りを実習生と共有する時間を積極的に作りましょう。
- 多くの実習生は緊張しているので、すぐに質問を出せなかったり、何を話してよいかわからなかったりすることもよくあります。リラックスした雰囲気の中で具体的なエピソードを引き出しながらオープンクエスチョン※1で語りかけましょう。

※1 「はい」「いいえ」で答えられないように、回答者に自由な発言を促す質問形式

養成校との連携について \ check 3 /

- 訪問指導の際、養成校の教員が実習生と落ち着いて対話ができる環境を作りましたか。
- 実習生の課題や気になることは、訪問指導の際に、養成校の教員と共有しましたか。



- 実習は、施設と養成校が協力して学生を育てる機会です。実習のねらいや評価の視点を共有し、双方の立場を理解しながら進めることが大切です。
- 実習前・実習中・実習後で、養成校との情報共有のタイミングを意識しましょう。小さなことでも、早めの連絡が実習生支援につながります。
- 実習後の振り返りや報告を共有することで、次の実習受入れへの改善や、実習生指導の質向上にもつながります。
- 訪問指導では、実習生と教員が話すことで実習生の緊張が和らぎ、実習中に聞けなかった疑問や不安を話しやすくなります。実習生が落ち着いて教員と話せる時間や場を設けることが重要です。

保育の魅力を伝える \ check 4 /

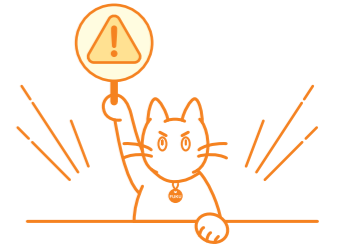
- こどもの小さな変化に目を向けさせていますか。
- 失敗を責めず、成長を実感させる声かけをしていますか。
- 実習生が感じたことを言葉にしてもらっていますか。
- 保育者の思考を言葉にし、「なぜそうするのか」を伝えていますか。
- 保育者自身が保育の好きなおとろや好きな瞬間、こどもの可愛い姿などを語っていますか。



- 「保育の楽しさ」と「専門性」の両方を見せることが大切です。日常の関わりの中で、保育者がどのようにこどもの姿を読み取り、判断し、支援しているのかを意識して言葉にすると、実習生は保育の奥深さを理解しやすくなります。
- 小さな気づきを共有し、実習生の視点を育てましょう。こどもの表情・しぐさ・変化に目を向けるポイントを伝えることで、実習生の「見える景色」が広がり、保育の魅力に気づきやすくなります。
- 園で働く職員の「前向きさ」や「保育の喜び」を発信しましょう。保育者自身が仕事のやりがいや好きな瞬間を自然に話したり、小さなエピソードを共有したりすることで、「この仕事っていいな」と実習生が感じられる機会が増えます。

その他 \ check 5 /

- アルバイトや就職を強要しない等就職トラブルに留意しましたか。
- 実習生の個人情報やプライバシー保護に十分配慮していますか。
- ハラスメント防止の視点を共有し、丁寧な言葉遣いを心がける等、園全体で適切な関わりを徹底していますか。
- 実習生の心の負担に気を配り、無理のない関わり方をしていますか。



参考文献

一般社団法人全国保育士養成協議会

「令和5年度子ども・子育て支援推進調査研究事業（子ども家庭庁）指定保育士養成施設及び実習先保育所の実習指導担当者に対する効果的な研修の在り方に関する調査研究」

発行 令和6年3月31日 保育実習指導マニュアル 保育所等版 抜粋

【発行】福岡県 【発行年】2026年1月